

## 令和4年度 職員による学校評価〔後期〕考察

### 〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

### 〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、22項目中20項目であり、その内、17項目で90%以上の肯定的評価であったのを鑑みると、前期に引き続き全体的には良好な結果が得られていると言ってよい。また【A】【B】の合計が100%であった項目も11項目あり、本校職員の教育活動に向ける高い意識がうかがえる。【C】【D】の否定的評価に目を向けると、合計が20%を超えている項目が「⑱地域の人材と施設の活用」と「㉔働き方改革」の2つだけであった。これらを総合的に判断すると、全体的に良好な状況が継続されていると考えられる。

### 〔3〕結果の考察

#### 【学校経営・学校運営への参画】（項目①～⑦）に関わって

学校経営・学校運営への参画の項においては、前回と同様に肯定的評価100%であった項目が、7項目中4項目あり、また残り3項目も全て90%以上の肯定的評価という結果を得られた。これは、前期から継続して職員全員が、目指す学校教育目標の意味を一つ一つ確実に理解し、目標達成の実現に向かって取り組んでいる表れである。また、校長を中心とした組織が十分に確立し、職員一人一人が各自の分掌や役割を十分に理解し業務に専念できているとも言える。しかし、【C】【D】評価があることにも注目したい。「③教職員間の報告・連絡・相談の体制」と「⑥校内研究の関わり」について、前期は【A】【B】評価のみだったが【C】評価がついた。職員全体が情報を共有し、共通理解を得て同じ方向を向いた指導を行うことに、より教育効果が得られるので、教職員間の報告・連絡・相談の体制の充実とはとても大切なことである。今後も相互に声かけを行うなど改善に努めていきたい。校内研究の関わりについては、本年度から始められた「学び合い」の研究が、研究過程の最中であるという理由が考えられる。組織として研究している以上、「何らかの形で児童に還元できるよう」という考えを大切にして、全ての職員が主体性を持って関わっていくことができるようにしたい。

#### 【学習指導】（項目⑧～⑪）に関わって

「⑧ICT機器の活用」「⑨読書活動の充実」「⑩めあての提示」「⑪評価の充実」の項目は、全て子ども達の学力向上に直接関わるとても重要なものである。前期同様この項においては80%以上の肯定的評価を得ているのだが、「⑧ICT機器の活用」「⑪評価の充実」に【C】評価が13%あり、前期よりも評価を落とした結果となった。1人1台端末が整備され、全児童が情報端末に触れる機会が格段に増えてきている。しかし情報端末に触れる機会の差が生まれていけば、活用能力にも個人差が次第に生じ、今後の社会を生き抜く力の育成にも大きく影響するだろう。ICTに関する研修や教職員相互の情報交換などを積極的に行い、教員のICT活用能力の向上を継続して努めるよう心がけたい。「評価の充実」については、「⑥校内研究の関わり」の項でも述べたように、研究がまだ始まったばかりであることが、影響していると考えられる。「評価の充実」について、継続して研究を重ねながら改善が図れたらと思う。

#### 【生徒指導・生活指導】（項目⑫～⑯）に関わって

「生徒指導」「生活指導」に関する5つの項目は、前回に引き続き良好な結果が得られ、全て【A】【B】評価100%であった。これは継続して日々先生方が一人一人に寄り添い、共感的・受容的な対応を心がけ、児童理解を徹底的に行っている成果である。しかし、「いじめ」や「不登校」は、いつでも、誰にとっても起こり得る問題であり、本校でも課題となっている。これからの多様化・複雑化された社会を生きなくてはならない子ども達に、その礎となりうる力を与えるためにも高い使命感をもちこれからも指導していきたい。

#### 【保護者・地域との連携】（項目⑰⑱）に関わって

「保護者や地域との連携」について、「⑰情報の発信」は【A】【B】評価89%であり、前期同様十分な結果を得られている。学校通信や学年通信の発行、ホームページの定期的な更新など情報発信を行っていたり、ホームページや学校メールで、即時性のある情報を積極的に配信していたりするからであろう。しかし「⑱地域人材・施設の活用」については【C】【D】評価28%と否定率が高く、前回よりややポイントは上回ったものの、更に改善していかなくてはならない項目となった。やはりこの3年はコロナ禍である影響が大きい。以前よりは制限の中でも工夫した取組を行えるようになってきたが、まだ十分ではないと考えられる。地域人材の発掘や利用できる施設等の集約もできていないという理由も挙げられるため、地域資源、外部講師などのリストを作成することを、改善を図る一つの方法として取り組みたい。コロナ禍の終息をいち早く願うのだが、こういう時だからこそ保護者や地域との連携を工夫していく必要がある。

#### 【小中一貫教育】（項目⑲～㉑）に関わって

項目⑲と㉑は新学習指導要領でも掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現である。2つの項目とも前回に引き続き【A】【B】評価93%という高い結果であった。コロナ禍での対話や深い学びの実現は厳しいように思えたが、校内研究での「学び合い」の取組が職員一人一人の意識を高め、対話でのルール作りやICTの活用、ワークシートやホワイトボード活用など、様々な工夫を導入して授業慶全に向けた取組が行われていた。これが高い評価を生み出している理由であろう。「主体的・対話的で深い学び」の実現こそが子ども達の確かな学力の獲得につながるため、今後も小中共同理解を図りながら取り組みたい。

Simpleプログラムも【A】【B】評価93%という高い結果であった。Simpleプログラムは、豊かな人間関係を構築することを目標とした活動であり、計画的に継続して取り組まれている。児童にも次第に、自尊感情や他者と関わる力（ソーシャルスキル）が育ってきており、肯定的評価を得られたのであろう。Simpleプログラムは、学び合いの基礎基本となる大切な“力”を育むものである。今後もしっかりとした取組で、互いに認め合うことができる児童の集団を育て、多くの学習に活かしてもらえることを願っている。

最後の項目「㉑働き方改革」は本年度から追加された項目である。結果は【A】【B】評価72%、【C】評価28%となり、前回に引き続き改善を必要とする項目となった。前回の結果を受け、定時退庁日を設け、意識化し改善を図ることを試みたが、良い結果には結びついてはいない。「働き方改革」「多忙化解消」は簡単には改善できないが、第一線で働く我々教職員自身が業務改善の意識を持ち、行動することが「将来の子ども達のため」に繋がると確信し、これからも教育活動の充実に邁進していきたい。

## 令和4年度 児童アンケート〔後期〕考察

### 〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

### 〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、16項目中15項目であり、その内、9項目が90%以上の肯定的評価で、全体的には良好な結果が得られている。特に「⑤私は係や当番の仕事をやっている。」は、前期に続いて肯定的評価が98%と高く、働くことの大切さや責任ある行動への意識の高さが継続してうかがえる。

逆に、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が20%を超えている項目は、前期と同じく「⑩私は、授業中に自分の考えを伝えている。」であり、否定的評価が24%であった。前期の29%よりも僅かにポイントは上回ったものの、更に改善に向けた取り組みが必要な項目である。

### 〔3〕結果の考察

#### 【学校生活】（項目①～④）に関わって

「①学校が楽しい。」「②決まりを守っている。」の項目は、前期同様に高い肯定的評価である。「③相談できる友だちがいる。」と「④相談できる先生がいる。」の2項目においては肯定的評価が90%以上となり、前期よりも良い結果を得ている。特に「④相談できる先生」は前期の結果を大きく上回っており、これは先生方が継続して積極的に児童一人一人に声をかけ、十分な安心感をもたらしている証拠であろう。相談できる相手の存在は安心感を生む。全ての児童が安心した学校生活を送るために、これからも児童の様子を常に気にかけて、変化を見逃さない観察力を高めていきたい。

#### 【確かな学力】（項目⑨～⑬）に関わって

「⑨私は、学校の授業が分かる。」「⑩私は、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果を見ると、どちらも前期に続き90%以上の高い肯定的評価である。しかし、「⑩私は、授業中に自分の考えを伝えている。」では、否定的評価が24%という結果であった。この項目は前期の結果を受け、重要課題として改善に取り組んだ項目である。具体的な改善方法としては、Ssimpleプログラムの充実と校内研究で取り組んでいる「学び合い」の研究で深めていくこととした。否定的評価率が前期の29%から24%となった今回の結果を見ると、改善しつつあると考えられる。これからも新学習指導要領が目指す「主体的・対話的な深い学び」を実現するためにも、試行錯誤しながら授業改善を行い、「自分の考えを伝えられる児童の育成」に努めていきたい。

「⑫私は、家に帰ってから勉強をしている。」の結果は、93%と肯定的評価が高く、家庭学習の定着が継続して見られる。日々の宿題や自主学習の取組が基礎・基本を身につけ、学習意欲を向上させている。今後も継続して家庭と連携してさらなる学力の向上を図りたい。

#### 【豊かな心】（項目⑤⑥⑦⑧⑬⑭）に関わって

橿形地区小中学校で取り組むことになっている「⑥無言清掃」「⑦靴そろえ」は、これまでも取り組んできた事であり、前期同様その肯定率からみても十分な評価といえる。本年度から小中一貫教育が

本格的にスタートしたが、楡形地区の児童、生徒全員が当たり前のこととして習慣化しているこの取組は、将来に向けた人間形成に大きな力となつてつながっている。

「⑧私は家の人に学校のように話を話している。」は、前期の結果を受け、保護者を巻き込んだ宿題の提示をしたり、お便りや部会、また懇談などでも「会話の大切さ」を伝えたりしていくという改善策を講じ、肯定的評価 80%以上を得ることができた。

「⑬私は、本を読んでいる。」は前期同様 88%と肯定的評価が高く、日頃から本に親しんでいる児童が多いと分かる。読書は知識だけでなく心も豊かにしてくれるので、これからも読書教育の充実を図りたい。

「⑭私は、自分からあいさつしている。」についても、引き続き肯定的評価が 88%と高い結果を得ている。日頃から、児童会活動の「あいさつ運動」や「小中連携あいさつ運動」等の定期的な取組が、全校児童に浸透しているからだと考えられる。今後もさらに肯定率を高めていきたい。

#### 【健やかな体】(項目⑮⑯)に関わって

「⑮早寝、早起きをしている。」と「⑯朝ご飯を食べている。」の肯定的評価は両方とも 80%以上と合格点ではあるが、【C】【D】の否定的評価の児童が存在することに不安が残る。前期の結果を受け、より詳細な調査を行い、結果から分かったことを学校保健委員会や学校だより等を用いて児童や保護者に伝える等の取組を行ったが、まだ改善には至っていない。不規則な生活や乱れた食生活は、児童の体や心の成長に大きく影響する。全国学力学習状況調査の結果から、ゲームやYouTubeに時間をかけるほど学力が低いことも報告されている。育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、家庭への啓発を継続して行い「早寝」「早起き」「朝ごはん」への徹底を図っていきたい。

#### 【その他】

(項目⑰⑱)に関わって

前回と比較すると、携帯電話・スマートフォン所有率が 44%と 2%上昇したが、所有している中でルールが決められている率は 67%と前回を下回った。携帯電話やスマートフォンはとても便利なツールではあるが、使い方を間違えると、自らの成長を損ない、また大きなトラブルに巻き込まれてしまうことも懸念される。これらから子ども達を守るためにも継続して学校と家庭が連携して、情報モラルを大切にする啓発活動を積極的に進めていきたい。さまた、子ども達に情報端末を正しく有効活用させながら、これからの社会を生き抜ける力を育てていきたい。

## 令和4年度 保護者アンケート考察

### 〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

### 〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、11項目中9項目で【A】【B】の合計が80%を超えている。さらに、その内6項目が90%を超える肯定的な評価になっており、満足できる状況にあると判断できる。しかし【C】【D】の合計が20%を超えている否定的評価の項目は一つもないのだが、計8項目にわたり【E】「わからない」という回答があり、気になる部分となっている。特に「⑨学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか」は、前年度に比べややその割合が減ったとは言え、「わからない」という回答が11%という率である。

### 〔3〕結果の考察

#### 【学校が楽しいか】（項目①）に関わって

【A】【B】評価が94%であり、多くの保護者が子どもにとって学校は楽しいところだと評価してくれている。しかし【C】【D】の否定的評価や【E】「わからない」という評価をする保護者もいる。家庭での子どもとの関わりからの評価と思われるが、全ての子どもに「学校は楽しいよ。」と言ってもらえるよう日々努めたい。

#### 【子ども理解（学習・友達）】（項目②④⑤）に関わって

「②おさんは、授業の内容が分かっていますか。」については【A】【B】評価が91%と前年度より5ポイント上回り、高い結果を得た。しかし、否定的評価があることを考えると、子どもが「理解していない」「ついていけない」と感じている保護者の存在も分かり、措置を講じなくてはならない。「指導力・授業力の向上」は教員の責務であり、全ての子に「分かる授業」の提供を心がけたい。

「④おさんは、家庭学習をしていますか。」については【A】【B】評価が89%の結果となり、各家庭で子どもへの家庭学習の指導が、十分に行えていることが分かる。これからも学校と家庭との連携を密にしながら、子ども達への「確かな学力」の獲得を目指したい。

子どもの相談相手の存在であるが、家庭では把握しにくいと考えられる。それが【E】回答が多いという結果が表している。児童アンケートの回答結果からは91%の児童が「相談できる友だちがいる」と高い結果を示しているが、家庭内で子どもから親に友だちのことまではあまり話されていないようである。保護者へは、受け身で聞くだけでなく積極的に問いかけるような会話の持ち方をするよう話をすることも必要だと考えられる。

#### 【家庭・地域との連携】（項目⑥⑨⑩）に関わって

「⑥学校には、おさんのことで相談できる先生がいますか。」は【A】【B】評価が80%以上となり、前年度を上回った。これは、日々教職員が子ども達に積極的に声をかけ、一人一人とのコミュニケーションを大切にしていることが、結果に表れてきたのだろう。

「⑨学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか。」の【A】【B】評価は78%であり、前回の結果よりやや改善しつつあるが、さらなる結果の向上を目指す項目である。教育活動を進めるにおいて、家庭や地域との連携は必要不可欠である。充実した教育活動や児童が安心して学校生活を送れるようにするためにも、学校は、家庭との距離が近くなるような関わり方を心がけたい。

#### 【生活習慣】(項目③⑩)に関わって

「③お子さんは、学校に行くとき朝ごはんを食べていますか。」の項目では【A】【B】評価98%と、とても高い肯定的評価が得られている。今後も継続した食や、規則正しい生活習慣づくりに関する啓蒙活動を心がけていきたい。また、「⑩ご家庭では、家族で互いにあいさつをするようにしていますか。」という問いにも【A】【B】評価95%と高評価を得ている。児童アンケートの肯定的評価88%という結果を合わせて見ると、学校だけでなく家庭での指導や実践が効果的に働いている結果だと考えられる。これからも継続した指導や取組を行い「あいさつ」を大切にできる人間形成を目指したい。

#### 【情報発信】(項目⑦⑧)に関わって

「⑦授業参観や運動会・音楽発表会などの学校行事は、お子さんの様子を知る機会となっていますか。」の【A】【B】評価は91%と前年度に引き続き高い結果であった。これはコロナ禍であり、いくつもの制限はあったが、感染予防措置を行い、できる限り学校に足を運んでもらえる機会を昨年度より増やし、また、YouTubeでの配信も加えたことが、高評価につながったのだろう。未だコロナの終息は叶わないが、感染防止対策をしながら、工夫を凝らして保護者が子どもの様子を知る機会を確保していけるように今後も努めたい。

「⑧学校(学年・学級)だよりやホームページから教育活動の様子を知ることができますか。」についても【A】【B】評価は91%と満足できる結果であった。職員アンケートの【A】【B】評価89%の評価からも分かるように、様々な手段を駆使して、情報を発信することが学校の理解につながると考えられる。信頼される学校づくりのために、これからも子どもの様子や学校の様子を発信するように努めたい。

#### 【情報端末について】(項目⑫⑬)に関わって

児童との調査結果と一概に比較できないが、情報端末使用ルールの有無は79%があると回答している。児童アンケートの考察でも述べたが、情報端末の使い方を間違え、トラブルに巻き込まれてしまう事案が多く報道などで採り上げられている。さらに継続して学校と家庭が連携して、啓発活動を積極的に進めていき、子ども達が情報端末を正しく有効活用できる力を育ませる必要がある。